

【青森県大鰐町】

校務D X計画

現在、町立小中学校で運用している統合型校務支援システムは、令和2年度末に新規導入し、令和7年度末に更改を予定している。現在、青森県教育委員会が主体となり進めている統合型校務支援システムの共同調達及び学校現場の状況を注視しつつ、統合型校務支援システムについて検討する。

1 校務支援システムのクラウド化

現行の統合型校務支援システムは、ネットワーク分離によるオンプレミス型で運用しており、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理等様々な校務で利用している。クラウドベースとなっていないため、自宅や出張先等において校務処理が困難であり、ロケーションフリーによる校務処理が出来ない等の課題がある。

学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワークシステム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

2 校務系及び学習系ネットワークの統合

教職員一人一人の実情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じることを前提としたうえで、学校・町情報管理者・関係業者等と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへの接続可能な環境の整備に向けた調査研究を着実に進める。

3 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの利活用

授業支援ソフトウェアやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データなど、膨大な教育データを収集・分析・可視化するインターフェース（教育ダッシュボード）を構築し、そこから得られる情報を効果的に活用して、校務及び授業の改善につなげるために教育ダッシュボードの最適な活用法や導入に向けた調査研究を実施する。

4 デジタル採点システム

デジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教職員の負担になっている。デジタル採点システムを採用している自治体の取組を参考とし、ICTを活用した採点業務の効率化について調査研究を行う。